

# 女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～

釧路市立新陽小学校 福田校長(前 釧路町立富原小学校教頭)



## Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

次の世代につないでいくことは、人に支えられて培ってきた資質や能力だけではなく、管理職も同じです。必ず、誰かがやらなければなりません。それぞれ個人の思いや、環境の違いはあるかもしれませんが、ミドルリーダーには、将来、釧路管内の教育を牽引する意味でも、そういう立場になって欲しいと思います。

先生方が伸び伸びと活躍できる環境を作り、バックボーンとなる存在でありたいと思っていますし、ミドルリーダーにもそのような存在になって続いて欲しいですね。

## Q 管理職を志した理由やきっかけは？

教頭昇任前の3年間、釧路小学校で北海道道徳教育推進リーダーを務め、全校の子どもたちの成長に大きな喜びとやりがいを感じ、視野がとても広がりました。

また、その時、釧路市で道徳教育の全国大会が開かれ、それを契機に「特別の教科・道徳」の授業づくりについて研修のお手伝いをするようになり、関わる対象が学校全体、釧路市、釧路管内と、大きくなればなるほど視野が更に広がり、この経験を生かして釧路の教育に恩返しをしたいと思うようになりました。

## Q 管理職になるために必要だった支援は？

職能研修など、校長会の皆様からご指導をいただいたのは、大変心強く有り難いことでした。

また、北海道道徳教育推進リーダーとして、国の中央研修や道内外の研修に参加する機会をいただいたことで、学校運営で何をすべきか理解を深められたことが、自分の考えをしっかりと持つ上で、大きな支援となりました。

家族の理解や支援もありました。夫が先に管理職になっていたこともあり、夫が校長先生方から「これからは女性管理職登用だよ」と言われていたようで、私以上に夫の方が結構、背中を押されていたようです。

そして、勤務地に関する配慮です。一人暮らしの母親は要支援状態でしたので、何かの時は私がどうしても対応しなければならず、自宅通勤が可能な勤務校に配慮してくださったことは、大きな支援でした。

次ページから  
インタビューの全文を  
掲載しております！  
是非御覧ください！

## Q 管理職になって気づいたことは？

教職員がそれぞれの立場で、その人が持つ能力を十分に発揮するには、やはり、前向きな気持ちで職務にあたる必要があると感じています。そして、そのためには、教職員の皆さんが、心身共に生き生きと輝ける環境を整えていくことが、とても大切だと気づきました。

## Q 管理職のやりがいや魅力は？

子どもの成長はもちろんのこと、教職員の成長や学校の成果も含めた全てが、やりがいであり魅力です。また、教頭は学校の窓口でもあり、地域や保護者の方から、直接、お褒めの言葉をいただくことが多いので、その都度、役得だなと思います。自分が動くこと、働くことで、教職員の皆さんが安心して子どもの教育に力を尽くしていると感じられた時は、大きなやりがいを感じますね。

## Q 後輩教職員へのメッセージは？

先輩教員の助けを得ながら仕事を続けてこられたので、次の世代につなぐことが先輩方への恩返しになると思います、現在に至っています。ミドルリーダーや後輩教職員の皆さんも、多かれ少なかれ、同じような経験をしてきたのではないのでしょうか？

皆さんがこれまで、人に支えられて培ってきた資質や能力を、是非、次のキャリアステージで発揮して、後輩世代につないで欲しいと思っています。

## Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

実は今年度(令和3年度)、本校(富原小学校)はベビーラッシュで、4人の赤ちゃんが誕生しています。実際、管理職として行ったことは、「子育てサポートブック」を印刷して提供し、子育てサポートに関する制度を伝えて、ご夫婦が安心して出産や育児ができる環境づくりに管理職として相談に乗り、協力したことです。

### 1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

私は教頭昇任前の3年間、釧路小学校で北海道道德教育推進リーダーを務め、道德教育の推進役として全学級の道德の授業づくりに関わり、全校の子どもたちの成長に大きな喜びとやりがいを感じました。

また、ミドルリーダーとして、教育活動全体を通して学校運営の参画にもつながる部分がとても多く、学級担任の時と違った醍醐味を感じ、視野がとても広がりました。

丁度、その時、釧路市で道德教育の全国大会が開かれ、全国の授業者と交流を持つことができ、また、釧路市内や釧路管内の学校にも「特別の教科・道德」の授業づくりについてというリクエストに応える形で、研修のお手伝いをするようになりました。関わる対象が学校全体、釧路市、釧路管内と、大きくなればなるほど私の視野も更に広がり、この経験を生かして釧路の教育に恩返しをしたいと思うようになりました。

もちろん、学級担任として目の前の子どもたちの成長に関わることや、学年主任として学年を見ていくことは、とても素晴らしいことですが、様々な経験をさせていただいたからには、別の形で広く還元していくのが私の役目と考え、当時の校長先生と、先に教頭として勤務していた夫の勧めや、高校生の娘の理解もあって、管理職を目指しました。

今、振り返ると、北海道道德教育推進リーダーになったのは、教員人生のターニングポイントだったと思います。

### 2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

管理職選考を受検するにあたり、職能研修など、直接、校長会の皆様からご指導をいただいたのは、大変心強く有り難いことでした。

また、北海道道德教育推進リーダーとして、国の中央研修や道内外の研修に参加する機会をいただいたことで、新学習指導要領の道德の主旨や北海道の教育について学び直すことができました。それによって学校運営で何をすべきか理解を深められたことが、自分の考えをしっかりと持つ上で、大きな支援となりました。

家族の理解や支援もありました。

夫が先に管理職になっていたこともあり、夫が校長先生方から「これからは女性管理職登用だよ」と言われていたようで、私以上に夫の方が、結構、背中を押されていたようです。私に管理職を勧めお声がかかった時、夫は「そのように言っていただけののなら、管理職選考を受検した方がいい」と、理解を示してくれました。

また、私が管理職選考を受検する年は、娘も大学受験で自宅から離れるタイミングでしたので、自分の時間の比重を管理職の仕事に置くことができるようになりますし、娘の応援もあり、決心しました。

そして、勤務地に関する配慮は大きな支援でした。

当時は、夫が既に管理職として単身赴任をしていて、娘が大学進学を機に釧路を離れると、私一人が自宅に残ることになります。釧路市内で一人暮らしの母親は要支援状態でしたので、何かの時は私がどうしても対応しなければならず、管理職選考の受検時には、家庭事情と自宅通勤可能な勤務校を希望することを伝えました。このような家庭事情を配慮してくださったことに、とても感謝しています。

私が管理職になった後に定められた「釧路管内小中学校管理職員等候補者育成方針」の中で、「女性教員の登用拡大に向け、子育て等で勤務地が限定される職員が管理職員に昇任する場合は、可能な限り通勤圏内の学校への配置を行う」等の規定が明示されましたので、子育て世代が管理職を志す際に不安材料が一つ減り、とても良いことと思っています。

### 3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

教職員がそれぞれの立場で、その人が持つ能力を十分に発揮するには、やはり前向きな気持ちで職務にあたることが必要であると感じています。そして、そのためには、教職員の皆さんが心身共に生き生きと輝けるように環境を整えていくことが、とても大切だと気づきました。

例えば、女性職員や子育て世代の職員から「教頭先生が女性だから、女性の身体のことを伝えやすくて助かった」とか「子育てについても、教頭先生がママさん先生なので、共感してもらえたり、わかってもらえたりしてほっとした」ということを聞きますと、経験の有無に関わらず、まずは子育て中の職員の不安に寄り添い、気持ちを理解することで、働きやすい環境を整えていくことが大切だと思います。

(次ページへつづく)

### 3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？(前ページからつづき)

また、日頃の声かけや日常的な何気ない会話から、先生方の健康状態や子どもとの関係などを引き出せるようにしたいと思っていますし、授業内容や教室環境などで気づいたことは先生方に伝え、先生方がより良くするために努力しているところを、まずは汲み取りたいと思っています。

富原小学校は大規模校なので、日々、色々なことがあり、コロナ対応においても、毎日、教職員みんなで消毒しています。大変な面もありますが、そうすることで安心して教育活動にあたれると、先生方がとても前向きに取り組んでくれるので、感謝しかありません。もともと協働意識が高い本校の教職員ですが、「これからも一緒に頑張ろう！」という気持ちでいてもらえるように、心がけたいと思います。

### 4・管理職のやりがいや魅力をお聞かせください。

学級担任の時は、子どもの成長に関われることが、教師のやりがいや魅力でしたが、教頭としては、子どもの成長はもちろんのこと、教職員の成長や学校の成果も含めた全てが、やりがいであり魅力です。

教頭は学校の窓口でもあり、地域や保護者の方から、直接、お褒めの言葉をいただくことが多いので、その都度、役得だと思えます。また、教職員が課題や困難な場面に直面した時に、解決に向けて支え力になれた時や、先生方から「教頭先生がいてくれて良かったです！」と言われた時は、教頭として役に立てて良かったと感じます。

自分が動くこと、働くことで、教職員の皆さんが安心して子どもの教育に力を尽くしていると感じられた時は、大きなやりがいを感じますね。

### 5・後輩教職員へのメッセージをお聞かせください。

私が、初任段階の時は、ミドルリーダーの先生方に教員としての「いろは」を教えていただきました。子育て期には、学年主任や分掌部長のサポートが、とても有り難かったです。

先輩教員の助けを得ながら仕事を続けてこられたので、自分がミドルリーダーになる時は、次の世代につなぐことが先輩方への恩返しになると思い、若手教員の手本となり、子育て期の先生を支えることを心がけてきました。その思いはいつも根底にあり、管理職の現在に至っています。

ミドルリーダーや後輩教職員の皆さんも、多かれ少なかれ、同じような経験をしてきたのではないのでしょうか？皆さんがこれまで、人に支えられて培ってきた資質や能力を、是非、次のキャリアステージで発揮して、後輩世代につないで欲しいと思っています。

### 6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

実は今年度(令和3年度)、本校(富原小学校)はベビーラッシュで、4人の赤ちゃんが誕生しています。この少子化の時代であって、大変喜ばしいことだと思います。

実際、管理職として行ったことは、「子育てサポートブック」を印刷して提供し、子育てサポートに関する制度を伝えて、ご夫婦が安心して出産や育児ができる環境づくりに管理職として相談に乗り、協力したことです。

特に今年はコロナ禍で、女性が働きながらの妊娠や出産は、新たなリスクが山ほど加わり、妊婦の心と身体への負担が本当に大きいものでした。ですから、不安が少しでも軽くなるように、管理職としてできることはないか気を配る必要がありましたし、通勤時の混雑緩和の制度なども、子育てサポートに関する制度を伝える中で利用してもらいながら、何とか無事に出産を迎えてもらいました。

4人の中には、ご主人が本校で勤務し、奥様が他校で勤務しているケースもありますが、男性教員の場合、管理職が黙っていたら、出産後もなかなか休暇を取らないかもしれません。しかし、奥様にしてみれば休暇を少しでも取って欲しいのではないかと思います。職員の権利ですので、子育てサポートに関する制度を伝えて、積極的に利用してもらうようにしています。

私が出産、子育てをした時は、制度が整っていなかったのが、夫はあまりあてになりませんでしたね。(笑)

私たち世代や、私たちより上の世代の人は、みんな、そのような状況だったと思います。当時の状況を考えれば、それは仕方のないことと思いますが、だからといって、それでよいということではありませんので、今は、その頃よりも子育ての制度や環境が整い、嬉しく思います。

#### 7・ご自身が子育てをしている時に、管理職から、どのようなサポートが支えになりましたか？

妊娠中にスケート大会があり、屋外の業務などについては、随分、配慮していただきました。

自分としては、体調が良かったこともあって、ある程度は通常通りに業務にあたることができと思っていましたが、決して無理をしてはいけないということで、管理職の先生方から「大事にしてください」と強く言っていただき、甘えることができました。

子育て期では、学校内の業務には全力を尽くしてきましたが、逆に、学校外の対外業務については受けられないことがありました。娘の送迎などで時間の制約があることも管理職に相談し、理解していただきましたが、そのサポートは、とても助かりました。

私の頃は、育児休業期間が最長で1年でしたから1年で復職しましたが、実は、2人目の子どもを望んでいたんです。でも、仕事をしながら望みどおりにはいかず、不妊治療のため通院した時期もありました。

その時は心も身体も辛かったのですが、妊娠しない限りは仕事上の配慮は望めませんでした。「その時、管理職にもっと相談できる環境があれば、違っていたかな？」と、今、振り返ると、そう思うこともあります。

妊娠や出産など、女性の悩みについては女性の管理職に話をしやすいと思うので、それは女性の強みと思って親身になって話を聞き、できるだけ不安材料を取り除いて、少しでも安定した状態で希望が叶うように、間接的に応援できたらいいなと思います。実際、女性同士だから話せることはあると思いますし、男性職員でも「奥さんのことで・・」ということがあります。

相談を受けた時は、私の体験談を交えながら話をすると「あっ、そうだよな」と気づいてもらえることがあります。「ワンオペ育児にはならないでね」ということも含めて、男性職員の意識や行動が「一緒に子育て」に変わってもらえると、ママさん先生も心強く、より仕事と家庭の両立ができると思いますし、両方の楽しみを持ちながら、前向きに仕事もできるのではないかと思います。

#### 8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

後輩教職員へのメッセージになりますが、次の世代につないでいくことは、管理職も同じです。必ず、誰かがやらなければなりません。それぞれ個人の思いや、できる、できないの環境の違いはあるかもしれませんが、ミドルリーダーには、将来、釧路管内の教育を牽引する意味でも、そういう立場になって欲しいと思います。

今、振り返ると、管理職の先生方が「好きなようにやれ。あとは大丈夫だ！」と、働きやすい環境整備に努めてくださっていたと思いますし、それは、懐の深いところがあたりだったからだと思うのです。

ですから、私もそういう立場になったら、先生方が伸び伸びと活躍できる環境づくりや、何かの時にはバックボーンとなる存在でありたいと思っています。

是非、ミドルリーダーの先生方にも、そのような存在となって続いて欲しいと願っています。

[インタビュー実施月：令和4年3月]

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。